

「アートキャラバン 2019 フライングディスク教室 IN THAILAND ～マイディスクをつくって遊ぼう～」

2019年3月24日(日)タイ・バンコクにあるタイ最大のスラム地区「クロントイ」で、「アートキャラバン 2019 フライング教室 in Thailand ～マイディスクを作って遊ぼう～」を開催しました。

この会場で実施するのは昨年に続いて今回で2回目です。約20名の子ども達がこの日を楽しみに待っていてくれました。



今回のアクティビティは全部で3つ。まずはバンコク日本人学校の先生方による音遊び「身体ほぐしゲーム」によるオープニングでした。簡単なタイ語の掛け合いで体を動すと、始め緊張していた子ども達の表情も少しずつ緩んできました。

次に紙皿と折り紙を使った「マイディスクづくり」、そしてフライングディスク教室とミニ競技大会。最後には競技大会の成績優秀者にメダルを授与する表彰式を行いました。

今回は学齢期以下の小さな子ども達も多く、とても賑やかなワークショップとなりました。

「クロントイスラム」での活動の拠点としているタイのNGO団体「シーカーアジア財団」は、図書館、移動図書館等を通してタイ国内の貧困地域で教育支援を行なっています。財団の職員によると両親がおらず行き場がない子ども達も多く集まってきているとのこと。子ども達の笑顔はバンコク共通。しかし、その裏にはこの子ども達ではとても抱えきれない大きな問題があります。

今回のワークショップ開催にあたり協力いただいた、「シーカーアジア財団」の職員の皆さん、インターンの学生達。バンコク日本人学校の先生方。国際ボランティア団体チーム「アジアの風」バンコク事務局のスタッフ。趣旨に賛同し日本から駆けつけてくれた仲間们に感謝します。





【「クロントイスラム」について】

「クロントイスラム」は約80,000人が住む、バンコク最大のスラムです。バンコクの玄関港であったクロントイ港へ仕事を求めて多くの人々が集まり、スラムを形成していきました。最初は数十世帯であったのが徐々に増えていき、1991年には世帯数が6,000以上に及びました。衛生環境の改善、教育レベルの向上、麻薬・HIV/AIDS感染予防、青少年における性行為の乱れや喫煙・飲酒なども問題となっています。スラムが抱える問題は山積みです。

「作って投げて笑って！」 ワークショップに参加して

「チュープレクジャン！」(変な名前！)

私が「ニックネームはモトだよ、味の素のモト」と自己紹介すると、屈託のない笑い声と共に遠慮のないコメントが飛んできた。発展を続ける東南アジアの大都市バンコク。その発展の恩恵をほとんど受けていないスラム街「クロントゥーイ」に住む子ども達は、その貧しさを感じさせない豊かな笑顔を見せてくれた。

バンコクに住む私が普段縁のないこの街を訪れたのは、「アジアの風」の活動に参加させて貰うためだった。子ども達に造形活動やスポーツを通じて社会参加を促す活動の一環として、「フライングディスクを作って遊ぼう」という内容だった。

集まった子ども達は21人。幼稚園児から小学生くらいの年齢で(「クロントゥーイ」のNGOで働いている方曰く)普段工作なんてする機会は全くないという。配られた材料でフライングディスクを作る子ども達、自分で作ったディスクで遊ぶ子ども達は本当に楽しそうでやんちゃで元気だった。一人ずつフライングディスクをゴールに向けて投げ、成功する度に皆で大きく純粋な歓声を上げる子ども達。半日のイベントだったけど、こんなに人間のエネルギーを感じたのはいつぶりだったのだろうか。

ひたすら経済発展に邁進していたバブル時代に比べ、「経済的な豊かさは幸せの総量と比例しない」ということに多くの日本人が気づいている。スラム街に住んでいる子ども達は必ずしも不幸ではないと思う。ただ、この街の中と外では教育機会の差は歴然としていて、今回のフライングディスクのような社会教育の場も少ない。社会教育の場が限られれば、ここで育った子ども達の将来の選択肢は限られてくるだろう。タイに住まわせて貰っている日本人として、何か出来ないかとお節介なことの一つも考える。今後も「アジアの風」の活動を通して「この国の人たちに少しでも恩返しをしたいな」と思う。

国際ボランティア団体 チーム「アジアの風」
バンコク支局長 三宅 志英

